

医療政策課 感染症・がん対策班
 担当：竹野
 電話：直通095-895-2466

三類感染症（腸管出血性大腸菌感染症）の発生について

三類感染症（腸管出血性大腸菌感染症：^{オーニエーログ} O26型）の発生について、下記のとおりお知らせします。

記

I 患者情報

1	発 生 地	県南保健所管内（雲仙市）
2	患 者	5歳・男性
3	発病年月日	平成28年 8月 6日
	初診年月日	平成28年 8月 6日
	診断年月日	平成28年 8月16日
4	診 断 方 法	検便 O26型 ペロ毒素検出
5	症 状 等	水様性下痢、血便、発熱
6	その他の状況	現在、快方に向かっている

II 近年の発生状況（暦年）

（単位：人）

	O157		O26		O111他		合 計	
	件数	患者数	件数	患者数	件数	患者数	件数	患者数
18年	10	10	8	8	1	1	19	19
19年	13	13	8	8	6	6	27	27
20年	18	19	4	4	10	10	32	33
21年	17	20	5	5	1	1	23	26
22年	18	19	3	3	1	1	22	23
23年	14	15	4	4	1	1	19	20
24年	9	9	3	3	5	5	17	17
25年	20	21	6	6	9	9	35	36
26年	18	18	5	5	4	4	27	27
27年	11	11	2	2	11	11	24	24
28年	2	2	6	6	3	3	11	11

平成28年保健所管内別発生状況（今回発生分を含む）

壱岐保健所管内	4件	4名
佐世保市保健所管内	2件	2名
長崎市保健所管内	1件	1名
県南保健所管内	2件	2名
西彼保健所管内	1件	1名
県央保健所管内	1件	1名

※ 患者・家族のプライバシー保護の観点から、患者に関する情報につきましては資料の範囲内とさせていただきますことをご了承ください。

腸管出血性大腸菌感染症

(*Enterohemorrhagic Escherichia coli* infection)

(特徴)

大腸菌は、動物や人の腸内にも存在し、そのほとんどは無害です。しかし、O157をはじめ、そのいくつかは、ベロ毒素という強い毒素を産生し、腹痛や下痢、進行すると出血を伴う腸炎や溶血性尿毒症症候群、脳症など重症な合併症を引き起こすことがあります。特に抵抗力の弱い高齢者や小児などでは注意が必要です。潜伏期間は2日から7日が多く、長いものでは12日におよぶこともあります。

(感染経路)

飲食物を介する経口感染がほとんどで、菌に汚染された飲食物を摂取するか患者の糞便で汚染されたものを口にすることが原因となります。このため人から人へと二次感染を起こすことがあり、食中毒としてだけでなく感染症として発症することがあります。

(症状)

主に水様性下痢と腹痛で発症し、数日内には血便がみられることもあり、多量頻回に排出する場合も多く、中には嘔吐や38℃台の発熱を伴うことがあり、微量の菌でも感染するため、二次感染が起こりやすいとされています。

(予防)

- 調理や食事の前、トイレやオムツ交換の後などには、手洗いを流水と石けんにより丁寧にを行い、清潔なタオルやペーパータオルで手を拭いて下さい。
- 浴槽は洗浄して清潔を保ち、下痢症状が見られる場合は入浴を控えるか、シャワー浴または最後に入浴しましょう。
- 汚染部分や人の手が触れる部分（ドアノブ等）を消毒用アルコール等で丁寧に消毒しましょう。
- 肉、魚、野菜などの生鮮食品は新鮮なものを購入し、賞味期限を守りましょう。また調理は十分に加熱（食品の中心温度を75℃、1分以上）して、すぐに食べるようにし、保存する場合は冷蔵庫に入れるようにしましょう。

(早期受診)

早期に診断、治療を受けることが重症化や二次感染を防ぐことにつながるため、自己判断で下痢止め薬を服用したりせず、症状があるときは速やかに医療機関を受診しましょう。